

第 8 回 鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果概要

「第 8 回鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)」を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

- 平成 29 年 4～6 月期の業況は「横ばい」。
- 建設業と運輸業は大幅に改善したものの、その他の業種では悪化し、特に不動産業では大幅に悪化した。
- 平成 29 年 7～9 月期の業況は「横ばい」で推移する見通し。

業況 DI

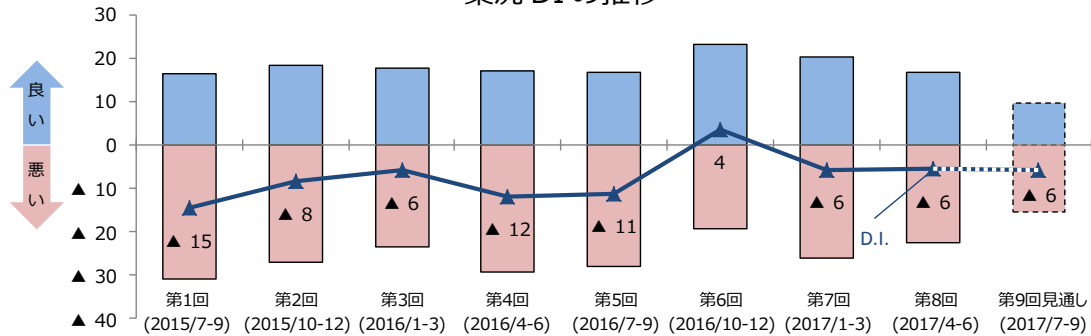
○今期は▲6(良い<悪い)となり、前期(▲6)と横ばいだった。

- 業種別では、建設業(前期▲17→今期 6)は 4 期連続で改善、プラスに転じ、運輸業(前期▲56→今期 0)も大幅に改善した。一方、その他の業種は悪化しており、特に不動産業(前期 43→今期 13)は依然プラス圏に留まるものの大幅に悪化している。
- 前年同期(▲12)と比較すると、やや改善となっている。

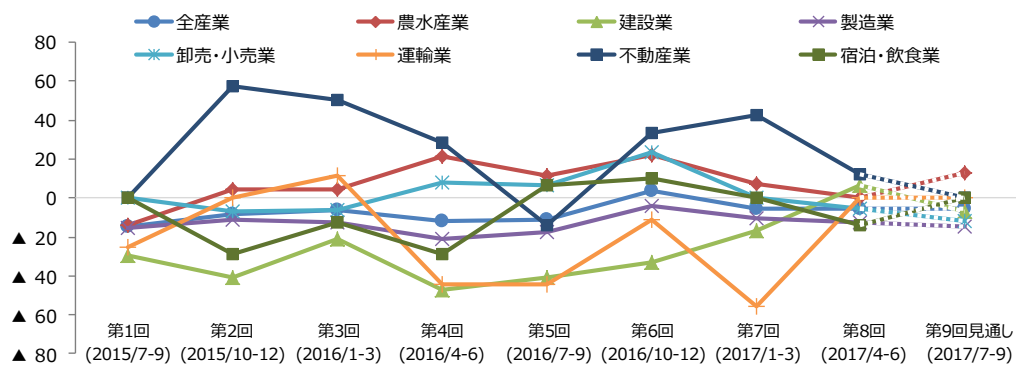
○来期は▲6(良い<悪い)と、横ばいで推移する見通し。

- 業種別では、製造業(今期▲13→来期▲15)と運輸業(今期 0→来期 0)は横ばい、農水産業(今期 0→来期 13)と宿泊・飲食業(今期▲14→来期 0)は改善する見通し。一方、卸売・小売業(今期▲6→来期▲12)はやや悪化、建設業(今期 6→来期▲7)と不動産業(今期 13→来期 0)は悪化すると見込まれる。

業況 DI の推移



業種別業況 DI



※ 上記は、主な DI 値の概況です。詳細は「鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果」を御覧ください。

概 況

業 況 D I	<p>○今期は▲6(良い<悪い)となり、前期(▲6)と横ばいだった。</p> <p>▶業種別では、建設業(前期▲17→今期6)は4期連続で改善、プラスに転じ、運輸業(前期▲56→今期0)も大幅に改善した。一方、その他の業種は悪化しており、特に不動産業(前期43→今期13)は依然プラス圏に留まるものの大幅に悪化している。</p> <p>▶前年同期(▲12)と比較すると、やや改善となっている。</p> <p>○来期は▲6(良い<悪い)と、横ばいで推移する見通し。</p> <p>▶業種別では、製造業(今期▲13→来期▲15)と運輸業(今期0→来期0)は横ばい、農水産業(今期0→来期13)と宿泊・飲食業(今期▲14→来期0)は改善する見通し。一方、卸売・小売業(今期▲6→来期▲12)はやや悪化、建設業(今期6→来期▲7)と不動産業(今期13→来期0)も悪化すると見込まれる。</p>
生 産 高 D I	<p>○今期は▲13(増加<減少)と、前期(▲16)よりやや上昇した。</p>
売上・完工高D I	<p>○今期は▲8(増加<減少)と、前期(▲3)よりやや悪化した。</p> <p>▶業種別では、建設業は6と前期(▲28)から大幅に改善しプラスに転じ、運輸業(前期▲33→今期0)も大幅に改善した。一方、その他の業種は悪化しており、特に不動産業(前期57→今期13)は依然プラス圏に留まるものの大幅に悪化した。</p> <p>○来期は▲4(増加<減少)と、やや改善する見通し。</p> <p>▶業種別では、製造業(今期▲22→来期▲17)と不動産業(今期13→来期17)はやや改善、宿泊・飲食業(今期14→来期33)は改善し、農水産業も19と今期(▲8)より大幅に改善しプラスに転じる見通し。一方、運輸業は▲25と今期(0)より大幅に悪化し再びマイナスに転じると見込まれる。</p>
製品・商品在庫D I	<p>○今期の在庫の過不足感は「過剰」が10%、「適正」が79%、「不足」が10%、DIは0(過剰=不足)となり、前期(▲9)よりやや過剰となった。</p>
製(商)品販売単価D I	<p>○今期は0(上昇=低下)と、前期(5)よりやや低下した。</p> <p>▶業種別では、製造業(前期▲11→今期▲9)は横ばい、宿泊・飲食業(前期8→今期14)はやや上昇、運輸業は14と前期(▲13)より大幅に上昇しプラスに転じた。一方、その他の業種は低下しており、卸売・小売業(前期20→今期0)と不動産業(前期25→今期0)は大幅に低下している。</p> <p>○来期は▲2(上昇<低下)と、ほぼ横ばいで推移する見通し。</p> <p>▶業種別では、農水産業(今期9→来期5)と建設業(今期0→来期▲7)はやや低下、宿泊・飲食業(今期14→来期0)は低下し、その他の業種はほぼ横ばいで推移する見通し。</p>
原材料仕入単価D I	<p>○今期は26(上昇>低下)と、前期(38)より低下した。</p> <p>▶業種別では、不動産業(前期50→今期50)は横ばい、製造業(前期19→今期24)と宿泊・飲食業(前期38→今期43)はやや上昇した。一方、その他の業種は低下しており、特に農水産業(前期48→今期13)と運輸業(前期75→今期33)は大幅に低下している。</p> <p>○来期は23(上昇>低下)と、やや低下する見通し。</p> <p>▶業種別では、製造業と卸売・小売業、不動産業は横ばい、農水産業はやや上昇する見通し。その他の業種は低下し、特に宿泊・飲食業(今期43→来期9)は大幅に低下すると見込まれる。</p>
資金繰りD I	<p>○今期は▲1(楽<苦しい)と、前期(▲9)よりやや改善した。</p> <p>▶業種別では、製造業はやや改善、宿泊・飲食業は改善し、運輸業(前期▲25→今期11)と建設業(前期▲18→今期13)は大幅に改善し、それぞれプラスに転じた。農水産業は横ばい、卸売・小売業はやや悪化、不動産業は13とプラス圏に留まるものの、前期(43)より大幅に悪化している。</p> <p>○来期は▲7(楽<苦しい)と、やや悪化する見通し。</p> <p>▶業種別では、卸売・小売業と宿泊・飲食業は横ばい、農水産業と製造業はやや悪化、建設業と運輸業、不動産業は悪化する見通し。</p>

概 況	
雇 用 人 員 D I	<p>○今期は▲40(過剰<不足)と、前期(▲42)とほぼ横ばいとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 依然として全ての業種でマイナスとなっており、特に運輸業は▲100 と雇用の不足感が非常に強い。 ▶ 業種に限らず、人手不足が売上(受注)数量を制限する足かせであるという意見が多く挙げられている。 ▶ なお、鹿屋公共職業安定所(鹿屋市、垂水市、肝属郡を管轄)の平成29年4~6月の有効求人倍率の平均は1.16倍となっている。6月の有効求人数(パート含む)3,428人、有効求職者数(パート含む)は2,924人となっている。 <p>○来期は▲37(過剰<不足)と、やや改善する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 業種別では、運輸業は▲78 と今期(▲100)より大幅に改善する見通しだが、依然として全ての業種がマイナス圏に留まり、労働力不足の状態は続く見込まれる。
損 益 D I	<p>○今期は▲8(好転<悪化)と、前期(▲6)とほぼ横ばいとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 業種別では、製造業(前期▲18→今期▲11)はやや改善、運輸業(前期▲44→今期0)と建設業(前期▲33→今期▲13)は大幅に改善した。一方、農水産業(前期10→今期4)と宿泊・飲食業(前期8→今期0)はやや悪化、卸売・小売業(前期13→今期▲26)と不動産業(前期57→今期13)は大幅に悪化している。 <p>○来期は▲6(好転<悪化)と、ほぼ横ばいで推移する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 業種別では、建設業(今期▲13→来期0)は改善する見通し。一方、運輸業(今期0→来期▲11)は悪化、不動産業は▲14 と今期(13)より大幅に悪化しマイナスに転じると見込まれる。

【調査概要】

1 調査対象： 市内事業所 182 先

〔 農水産業 39 先、建設業 20 先、製造業 64 先、卸売・小売業 20 先
不動産業 8 先、運輸業 12 先、宿泊・飲食業 19 先 〕

回答数：147 件 回答率：80.8%

2 調査時期： 平成 29 年 7 月

3 対象期間： 平成 29 年 4~6 月期実績(今期)、平成 29 年 7~9 月期見通し(来期)

4 調査方法： 郵送方式

5 集計方法： 回答数の構成比を求めた上で、「良い」の構成比から「悪い」の構成比を引いて「D I 値」として指標化しました。

例えば、景況感の「良い」が 10%、「悪い」が 50%の場合、D I 値は「▲40」となります。「D I」(Diffusion Index、ディフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。

6 質問項目： 業況、生産高、売上・完工高、在庫、仕入単価、資金繰り、雇用人員、損益、今期損益の好転・悪化要因、自由意見

鹿屋市 市長公室政策推進課

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

T E L : 0994-43-2111 F A X : 0994-42-2001

m a i l : seisaku@e-kanoya.net

第8回 鹿屋市短期経済観測調査（かのや短観）結果

(単位：%)

項目	平成29年1～3月 前 期				平成29年4～6月 今 期					平成29年7～9月 来 期 見 通 し				
	状 況		悪い 減少	DI (A-C)	状 況		悪い 減少	DI (A-C)	前 回 調 査 時 期 と 今 見 通 し	状 況		悪い 減少	DI (A-C)	
	良い 増加	普通 同程度			良い 増加	普通 同程度				良い 増加	普通 同程度			
(A)	(B)	(C)	(A-C)	(A)	(B)	(C)	(A-C)		(A)	(B)	(C)	(A-C)		
自社の業況(景況感)	20	54	26	▲ 6	17	61	22	- ▲ 6	▲ 11	9	75	15	- ▲ 6	
農水産業	21	66	14	7	13	75	13	↓ 0	3	13	87	0	↑ 13	
建設業	17	50	33	▲ 17	25	56	19	↑ 6	▲ 6	7	80	13	↓ ▲ 7	
製造業	18	53	29	▲ 10	16	55	29	↓ ▲ 13	▲ 17	9	67	24	↓ ▲ 15	
卸売・小売業	27	47	27	0	17	61	22	↓ ▲ 6	▲ 29	6	76	18	↓ ▲ 12	
運輸業	0	44	56	▲ 56	25	50	25	↑ 0	▲ 22	13	75	13	- 0	
不動産業	57	29	14	43	25	63	13	↓ 13	0	0	100	0	↓ 0	
宿泊・飲食業	17	67	17	0	7	71	21	↓ ▲ 14	▲ 10	15	69	15	↑ 0	
生産高(製造業)	18	49	33	▲ 16	20	46	33	↑ ▲ 13	▲ 11	19	55	26	↑ ▲ 8	
売上・完工高	29	39	32	▲ 3	21	50	29	↓ ▲ 8	▲ 6	16	64	20	↑ ▲ 4	
農水産業	28	48	24	3	13	67	21	↓ ▲ 8	7	24	71	5	↑ 19	
建設業	28	17	56	▲ 28	31	44	25	↑ 6	▲ 12	6	81	13	↓ ▲ 6	
製造業	21	45	34	▲ 13	17	44	39	↓ ▲ 22	▲ 13	15	54	31	↑ ▲ 17	
卸売・小売業	40	33	27	13	26	42	32	↓ ▲ 5	▲ 15	17	56	28	↓ ▲ 11	
運輸業	22	22	56	▲ 33	38	25	38	↑ 0	▲ 11	0	75	25	↓ ▲ 25	
不動産業	71	14	14	57	25	63	13	↓ 13	0	17	83	0	↑ 17	
宿泊・飲食業	31	62	8	23	21	71	7	↓ 14	10	33	67	0	↑ 33	
製品・商品在庫 (適正水準比)	多い	妥当	少ない	▲ 9	多い	妥当	少ない	▲ 10	▲ 0					
農水産業	5	68	27	▲ 23	0	84	16	↑ ▲ 16						
建設業	14	57	29	▲ 14	0	75	25	↓ ▲ 25						
製造業	4	84	11	▲ 7	13	79	8	↑ 6						
卸売・小売業	20	73	7	13	22	78	0	↑ 22						
運輸業	0	80	20	▲ 20	25	75	0	↑ 25						
不動産業	25	25	50	▲ 25	17	50	33	↑ ▲ 17						
宿泊・飲食業	0	92	8	▲ 8	0	92	8	- ▲ 8						
製(商)品販売単価	上昇	横ばい	低下	5	上昇	横ばい	低下	▲ 9	▲ 2	上昇	横ばい	低下	▲ 2	
農水産業	28	68	4	24	13	83	4	↓ 9	8	10	86	5	↓ 5	
建設業	24	65	12	12	14	71	14	↓ 0	12	7	79	14	↓ ▲ 7	
製造業	4	81	15	▲ 11	5	80	15	↑ ▲ 9	▲ 15	4	85	11	↑ ▲ 7	
卸売・小売業	27	67	7	20	5	89	5	↓ 0	15	6	89	6	- 0	
運輸業	13	63	25	▲ 13	14	86	0	↑ 14	▲ 13	14	86	0	- 14	
不動産業	50	25	25	25	20	60	20	↓ 0	25	0	100	0	- 0	
宿泊・飲食業	15	77	8	8	14	86	0	↑ 14	▲ 18	0	100	0	↓ 0	
原材料仕入単価	上昇	横ばい	低下	38	上昇	横ばい	低下	1	26	38	23	76	1	↓ 23
農水産業	52	44	4	48	13	88	0	↓ 13	48	17	83	0	↑ 17	
建設業	61	33	6	56	44	56	0	↓ 44	50	40	60	0	↓ 40	
製造業	21	77	2	19	26	72	2	↓ 24	28	25	74	2	↓ 23	
卸売・小売業	33	67	0	33	17	83	0	↓ 17	31	19	81	0	↑ 19	
運輸業	75	25	0	75	33	67	0	↓ 33	75	17	83	0	↓ 17	
不動産業	50	50	0	50	50	50	0	- 50	50	50	50	0	- 50	
宿泊・飲食業	38	62	0	38	43	57	0	↑ 43	9	9	91	0	↓ 9	
資金繰り	楽	普通	苦しい	▲ 9	楽	普通	苦しい	▲ 11	▲ 13	6	81	13	↓ ▲ 7	
農水産業	13	73	13	0	8	84	8	- 0	▲ 3	8	79	13	↓ ▲ 4	
建設業	6	71	24	▲ 18	19	75	6	↑ 13	▲ 22	7	80	13	↓ ▲ 7	
製造業	10	65	25	▲ 15	9	75	16	↑ ▲ 7	▲ 23	6	78	17	↓ ▲ 11	
卸売・小売業	13	73	13	0	5	84	11	↓ ▲ 5	8	6	82	12	↓ ▲ 6	
運輸業	0	75	25	▲ 25	11	89	0	↑ 11	▲ 13	0	100	0	↓ 0	
不動産業	43	57	0	43	13	88	0	↓ 13	40	14	71	14	↓ 0	
宿泊・飲食業	0	77	23	▲ 23	7	80	13	↑ ▲ 7	▲ 27	0	92	8	↓ ▲ 8	
雇用人員	過剰	適正	不足	▲ 42	過剰	適正	不足	▲ 40	▲ 40	過剰	適正	不足	▲ 37	
農水産業	0	66	34	▲ 34	8	67	25	↑ ▲ 17	▲ 36	4	70	26	↓ ▲ 22	
建設業	6	39	56	▲ 50	6	31	63	↓ ▲ 56	▲ 50	0	44	56	- ▲ 56	
製造業	2	60	38	▲ 35	4	55	42	↓ ▲ 38	▲ 32	2	60	38	↑ ▲ 36	
卸売・小売業	7	53	40	▲ 33	5	58	37	↑ ▲ 32	▲ 31	6	67	28	↑ ▲ 22	
運輸業	0	11	89	▲ 89	0	0	100	↓ ▲ 100	▲ 78	0	22	78	↑ ▲ 78	
不動産業	0	71	29	▲ 29	0	75	25	↑ ▲ 25	▲ 40	0	71	29	↓ ▲ 29	
宿泊・飲食業	0	46	54	▲ 54	0	47	53	↑ ▲ 53	▲ 55	0	54	46	↑ ▲ 46	
損益	好転	横ばい	悪化	▲ 6	好転	横ばい	悪化	▲ 8	▲ 10	好転	横ばい	悪化	▲ 6	
農水産業	23	63	13	10	16	72	12	↓ 4	3	13	88	0	↑ 13	
建設業	11	44	44	▲ 33	13	63	25	↑ ▲ 13	▲ 22	0	100	0	↑ 0	
製造業	10	61	29	▲ 18	11	67	22	↓ ▲ 11	▲ 17	8	72	21	↓ ▲ 13	
卸売・小売業	33	47	20	13	0	74	26	↓ ▲ 26	▲ 8	0	82	18	↑ ▲ 18	
運輸業	11	33	56	▲ 44	22	56	22	↑ 0	▲ 11	11	67	22	↓ ▲ 11	
不動産業	57	43	0	57	25	63	13	↓ 13	0	0	86	14	↓ ▲ 14	
宿泊・飲食業	15	77	8	8	7	87	7	↓ 0	0	8	92	0	↑ 8	

注)四捨五入の関係上、D I 値(A-C)は一致しない場合がある。